

かかわりを深める造形活動の指導

－「写真フレーム作り」の実践から－

森 本 泰 史

1 はじめに

楽しく造形活動を行うことは、大切であり、自らつくり出す喜びを味わう体験である。一人一人が自分の納得する自分らしい作品を創り出すことは、その過程を通じてそのものの見方や感じ方を養い、価値・意味をつくり出すことにつながっていくと思われる。材料を探したり、表し方を試したり、想いのままに表したりと試行錯誤しながら自分の想いを実現するために活動に没頭することができるように、自ら決める場を大切にしていくことが必要である。そのためには、子どもたちがゆとりをもって取り組めるように、選択幅を広げていくことや、体を十分に働かせ、材料や用具を選択してつくるなどが考えられる。また、美しさや用途などを考え、デザインしながら材料や用具の生かし方を工夫していくことも必要であろう。このような過程において、“ひととのかかわり、ものとのかかわり”を深めていくことは、多様で創造的な表現を促し、造形感覚や創造的な技能などを高めることができるようになっていくのだと考える。

また、鑑賞は、“ひととのかかわり、ものとのかかわり”そのものであるとも言える。作品を鑑賞することは、よさや美しさなどを感じ取ったり見方を深めたりできる。いろいろな生き方を学び、作品をよりよく鑑賞する能力と態度を養い、合わせて豊かな情操を育てるものを見る目、人を見る目、ものやことを推しはかる目を育て、感覚や感性を高めていくことにもつながるだろう。

「課題→情報・アイデア→構想→制作→鑑賞」という創作活動の中で、“ひととのかかわり、ものとのかかわり”を全面に出していくことで、ものを見つめ、教え合ったり、協力したり、他の作品を見ることがさらに生かされてくるだろう。また、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようになるという自立につながっていくと思う。

2 実践題材

第3学年題材－「写真フレーム作り」の実践から－

(1) 題材について

生活をより楽しくするために、飾ったり、使ったりするなど役立つものを作ることは、子どもたちにとって意欲的に取り組める楽しさを提供してくれるものである。写真や絵などを飾るフレーム作りは、自分らしいデザインを考えることにより、一人一人の発想のよさを生かして積極的に材料を集め、工夫しながら用具にかかわっていく題材だと考える。その過程を通じて、子どもたちは飾る写真や用途などを考えながら構想を広げ、創造的な技能を働かせるであろう。

また、鑑賞では、人とのかかわりを大切にしていきながら、子どもたちの身近にある親しみのある作品や暮らしの中にある作品も見せていきたい。さらに、このフレーム作りは、特に、自分だけでなく、見てくれるみんなも楽しくさせてくれものである。感じたこと思ったことを話し合うことで、友だちの視線で自分の作品を見直しをしたり、感性を高めたりしながら、主体的に作品にかかわっていくことができると考える。

本学級の児童は、これまでに、紙やダンボール、小枝や木ぎれなどの材料を生かし、また、金槌、のこぎり、小刀、ホットボンド等の用具を活用して造形遊びをしてきた。その活動を通じて、材料

を生かし切れていなかったり、用具を使いこなすことができなかったりすることがあったものの、発想を次々と広げ膨らましながら造形活動を楽しむことができるようになってきている。本題材では、これまでの体験をもとに、自分の思いと柔軟に対応できるように材料を選び、用具も考えながら計画を立てることから出発していきたい。

(2) 指導目標

- 1 自ら進んで計画を立て、構想を練りながら創作活動を楽しむことができるようにする。
- 2 友だちの作品や親しみのもてる作品のよさや面白さなどに気づき、自分なりの見方、感じ方を膨らませることができるようにする。
- 3 自分なりの思いにそって、材料を生かした表現方法を工夫し、用途を考えながら写真フレームを創ることができるようにする。

(3) 指導内容と計画 8時間

		第一次(2)		第二次(4)		第三次(2)		
これまでの 経験から題 材へ (オリエンテーション)		フの	自分の思い	フの	振 り 返 り	鑑	自分の作品	
		レ設	アイデアスケッチ				レ製	友だちの作品
		計	材料の選択				作	親しみのある作品
		ム図	必要な用具				賞	暮らしの中の作品

(4) 活動の主な流れ

① オリエンテーション

写真フレームという題材は、とても身近なものであり、暮らしの中の作品でもある。家の中はもちろん、雑貨店に行けば必ずといっていいほど置いてあるものである。その写真フレームは、写真を美しく飾るという用途からだけでなく、素材や形にこだわったもの、また、写真フレーム自体がアートになっているものまである。そこで、見せる作品に影響されやすいことを考慮して、表現形式の異なる作品を数点展示した。

② 写真フレーム設計図

自分の想いを明確にするため、まず、どんな写真を飾りたいかを決定した。自分の思い出の写真を飾りたいということだけでなく、自分が撮った写真、自分が大好きなものの写真、また、家族へのプレゼントと考えているなど、多様な思いが見られた。具体的な手だてとしてワークシートを活用した。アイデアスケッチを行う際、構想しやすいように、ヒントとなる材料用具を数点紹介していった。

③ 写真フレームの制作

自分で考えた設計図を元に、制作を行っていった。子どもたちには、4時間の時間設定で計画することを知らせた活動中には、協力してノコギリを使ったり、ヒントを教え合ったり、材料を交換し合う姿が頻繁に見られた。制作の最後に、自分の作品を振り返り、作品カードにまとめていった。

写真フレームのせつ計図！

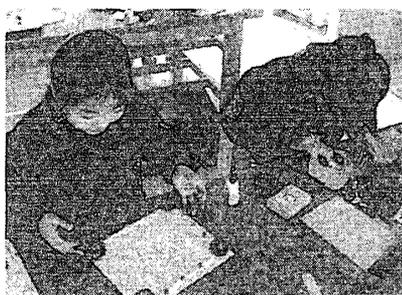
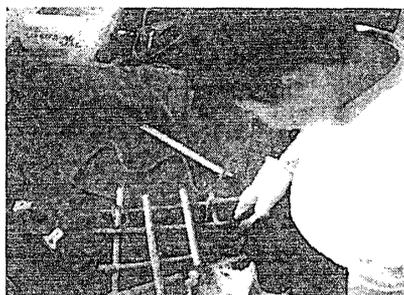
3年 2組 ()

どんな写真(絵)をはろうかな?
(どんな気持ち、思いをこめて作るかな)
いつもはたらいにくれる人に、恋しいの
思いをクリスマスの日。

アイデアスケッチをしよう
(どんなものを使おうかな、どんなかざりにしようかな)
(作り方の工夫も考えてせつめいを入れよう)

クリスマス

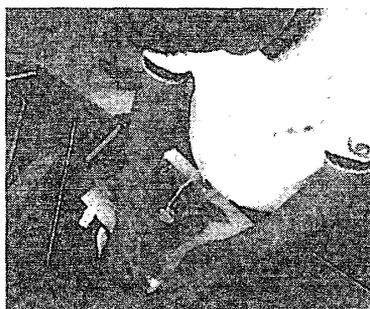
<p>ひつような材料 紙、木、木の束 ・じんぐり・くり</p>	<p>使う用具 はさみ ノコギリ のり</p>
---	-------------------------------------



④ 作品の鑑賞

できあがった作品をもとに改めて友だちの作品の鑑賞会を持った。友だちの作品の多面的なよさに気づくように、鑑賞する観点を焦点化していった。ワークシートも細かな項目をあげて記述しやすいように工夫した。最後に、今後、自分の表現に取り入れたいことを記述した。

作品名	また行きたいな!
3年 2組 名前	
きっかけ	わたしは夏休みにハウステンボスに行きました。その中で一番好きだった館をならか
きいた	かんぼくや、たすけいよ、てきはい、し
とくに	紙ねん土をハートの形にする戸手です
	また行きたいな!と気持ちを表現しました



⑤ 親しみのある作品、暮らしの中の作品

鑑賞の場を広げるため、家の中にある作品や町中の作品を探してみることを課題とした。子どもたちの探し出した作品は多種多様であった。様々な電化製品を始め、窓枠や壁時計、看板など表現の広がりを感じた。

3 題材における学習の実際（本時 第三次第1時）

(1) 本時の意図

作品の鑑賞を通じて、上手、下手という評価ではなく、作り手の思いが埋め込まれている作品のよさや面白さ等を大切にしていきたい。鑑賞の過程においては、友だちの作品の柔軟で、開放的で、多様な表現方法に見つめる視点を当てることで、個々の見方、感じ方を膨らませていくことにつながると思う。また、この鑑賞の活動の繰り返しは、大きな広がりをもった発想につながり、自分の思いを生かす表現方法に発展していくと期待する。

(2) 学習仮説

仮説	見つめる視点を提示した鑑賞を行い、作品のよさや面白さなどを認め合う場を設ければ、その子なりの発想や表現の面白さに気づくことができるであろう。
----	--

(3) 本時のねらい

友だちの作品に親しみながら、造形の楽しさを広げることができる。

- (4) 準備物 教師 親しみのある造形作品（写真フレーム）、ワークシート
子ども 作品、写真または絵

(5) 評価の観点

造形への関心・意欲・態度	鑑賞を通じて創作活動の楽しさを感じることができる。
創造的な技能	友だちの作品から自分の見方、感じ方を膨らまし、文字に表すことができる。
発想や構想の能力 鑑賞の能力	見つめる視点をもって鑑賞を行い、その活動を通じて作品のよさや面白さ、工夫などを感じることができる。

(6) 学習の展開

学 習 活 動	教 師 の 働 き かけ
1 学習のめあてを確認する。	1 各自の思いが書いてある作品カードを紹介し、提示したもののなかでその作品がどれであるか予想することを伝える。
	◎作品から、作り手の思いを感じとれるように促す。
2 学習の見通しをもつ	・作品をもとに話が進むような場を工夫する。
	2 学習の見通しを意識化するために、見つめる視点をもとに作品を鑑賞する場を設ける。
	◎上手、下手で判断せず、その作品のよさや面白さ、工夫したところ等見つめる視点を提供する。
3 クラスの中で互いに作品を鑑賞し合う。	3 友だちや自分の作品のよさや面白さを味わう時間をつくる。
	・作品とのかかわりが深まるようにワークシートを活用する。
4 感じたこと、思ったことを話し合う。	4 一人一人が自分の言葉で感じたこと、思ったことを話し合うなどしながら見ることを支援する。
5 鑑賞の場を広げる。	5 身近で親しみのある作品や暮らしの中の作品を鑑賞する場を設ける。
	・次時までには自分たちでも様々な作品を見つけてみることを伝える。

4 実践のふりかえり

(1) 表現活動

子どもたちは、それぞれ個性豊かな造形活動を行っていた。特に、事前のオリエンテーションとワークシートによる設計図が有効であったように思われる。木版に液体ねんどで形作った縁をはめたり、パップースチロールで形作りした土台にダンボールの縁をつけたり材料を複数組み合わせる場合が多く見られた。また、素材を生かすためにほとんど同じ材料で作る場合もあった。竹を編んで作った物、木板と木ぎれでバランスよく作った物、ダンボールを巧みに使った物などである。用途においても様々な工夫が見られた。前後に違う写真を飾り両方から見れるもの、小物入れを作っているもの、たくさんの写真を入れられるようにしたもの、クリップで写真を挟むものなど、よく考えていた。しかし、たくさんの材料を欲張ってしまって、素材が生かされなくなったり、じょうぶな物にならなかつたり、うまく立たないなど用途のことが疎かになった場合も見られた。用具の使い方など今後検討していかなくてならないと思う。

一方で、子どもたちの思いを全面に出した作品も多かった。小さい頃の写真や旅行したときの写真など自分の思い出の写真を飾るために作ったもの、家族へのプレゼント用に作ったもの、自分が飼っているペットの写真や大事にしている写真を飾るためのもの、また、自分で撮った写真を飾りたいものなど多様であった。中には、写真が選べずに取り組んでしまった児童もあり、めあてがはっきりしない場合も見られた。また、作るうちに、周りに影響され過ぎて色々と変えすぎてしまうこともあった。

制作のふりかえりでは、ほとんどの子が自分の作品を肯定的に紹介しており、自分の作品を見てほしいという気持ちが強かったように思う。

(2) 鑑賞の時間

鑑賞の導入で、子どもたちの想いを全面に出す鑑賞を考えてみた。子どもたちは、制作活動中や作品展示している時によく友だちの作品を見ているようで、友だちの作品カードを読むとすぐにその友だちの作品を選ぶことができる場合が多かった。

鑑賞の項目では、丁寧さ、アイデア、ユニークさ、じょうぶさ、使いやすさ、材料のよさ、色の表し方、形の特徴用具の使い方など多くのポイントが挙げられた。子どもたちはそれぞれのポイントで、友だちの作品のよさを具体的に評価していたように思う。細かいところまでよく見ていたように思う。自分の作品にとりいれたいことを考える時間が短く、自分の作品を再びよく見ることの大切さがよく分かった。

鑑賞の場を広げる活動も、子どもたちは意欲的に活動してくれた。しかし、つながりから考えると、導入にもってきたり、あるいは、独立させて取り組んだ方が有効であったように思う。子どもたちがさがしたフレームと子どもたちが作った写真フレームは、用途や形状が異なるからである。また、鑑賞の内容が高学年よりなので今後検討していかなくてはならない。

5 考察

(1) 人とのかかわり

- ・アイデアを出し合う設計図を考えたり、試行錯誤しながら進めたりしていく制作過程においても、人とのかかわりを積極的に認めていく姿勢は、想いをよりよく生かすための創造性を広げるなどのことにおいて有効であった。
- ・お互いの表現を鑑賞し、コメントを添えて交流していくことは、作品を通じて相手の気持ちを共感できる他者理解の育成につながっていくと考えられる。
- ・保護者や写真家などとの交流を通して、写真そのものに触れる喜びやすばらしさを体感する機会をもつなど、インターネットを使って鑑賞の枠を広げる取り組みを今後行っていく必要があるだろう。
- ・ゲーム的な要素を取り入れながら、より楽しく身近に鑑賞できる環境も考えていきたい。

(2) ものとのかかわり

- ・鑑賞をし合う場面では、作品を見つめるポイントをいくつか出し合い、その視点で作品のよさを鑑賞しあった。子どもたちは、様々な視点で作品を見て回ることができた。
- ・材料との出会わせ方を工夫したり、表現方法や材料を限定しないで内容に関連づけたりすることで、子どもたちの発想が広がることがわかった。
- ・題材に合った活動場所の雰囲気や工夫や、子どもたちが自主的で、安全に材料や道具と関わることができるように、用具の使い方を確認する説明図や材料コーナーの設定など、より細やかな配慮が必要である。
- ・題材のねらいを明確化して、子どもたちの自由な選択にゆだねる場面を効果的に設定していく必要がある。

鑑賞カード

3年 2組 ()

○ 友だちの作品を見て、「いいなあ」と感じることを見るポイントごとに書きましょう

見るポイント	だれの	どんなところが
バランス		前と後ろのバランスをつけている
使いやすさ		しゅんじゅんに作っていて、この前だけ家で
ユニーク		目を動かすところをつけてあ
いいね		フーがさかかかかん王を丸め
アイデア		リスのようにしている

○ 自分の作品にとりいれたいこと

かみばさみで写真をこいていしている。(かんじで)
どんぐりがついて楽しくなると